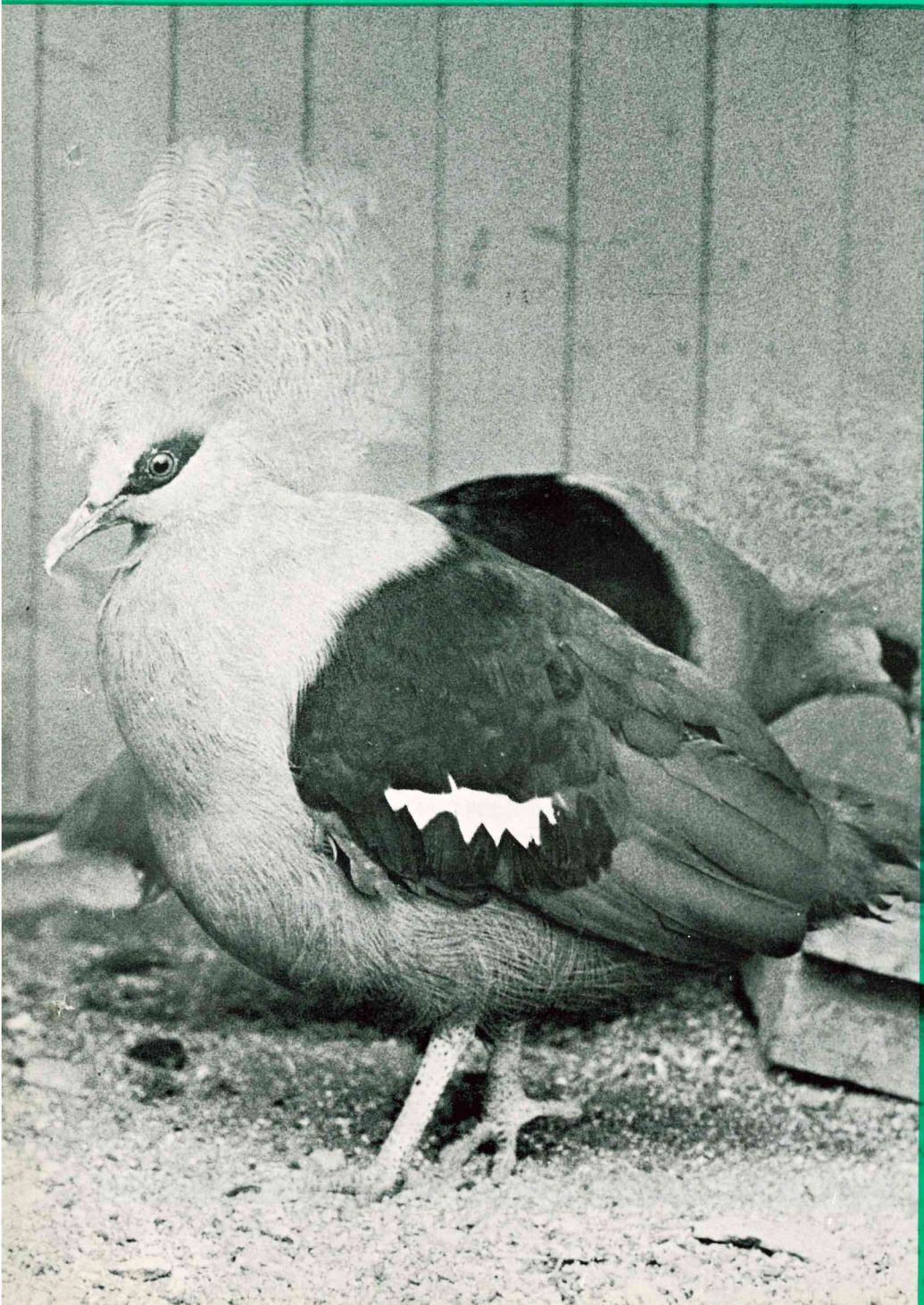


なきごえ



1972

6

大阪市
天王寺動物園協会

ヌートリアの悲劇

岡田 健三

輸入動物のヌートリアが山陽地方で農作物を食荒しているという話を耳にした。実情を見て生態写真を撮ろうと思いたち、カメラマンと取材にでかけた。

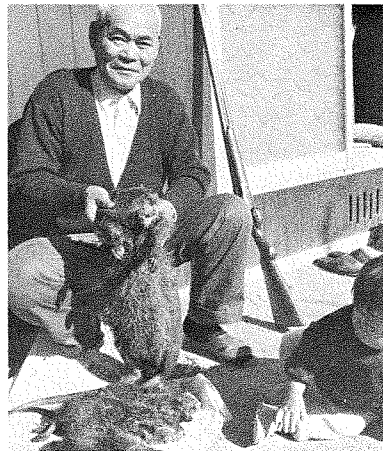
児島湾の干拓地が広がる岡山県児島郡藤田村はとくに被害がひどいという。岡山市から南へ約7km、車で約20分も走ると両側は一面田畑。野菜畑にクワを入れる夫婦、ニワトリを追いかける子どもたち。「こんなところにバケモノネズミのヌートリアがいるんかなあ」。カメラマンも私も半信半疑で景色をながめていた。

だが、車を降り、あぜ道にはいつてハッとした。いたずら者に食いちぎられたダンコンの根やハクサイの葉がいたるところに散らばっている。踏みつけられて折れまがった稲もある。21平方kmの同村はすべて干拓地でインダラーや耕運機による大型農業が進んでいるところだ。干拓地には2-7mの農業用水路が網の目のように走っており、川面は水草がいっぱい。水の中を根城にするヌートリアにとって格好のすみかに違いない。田植えを終えた水田が一晩で1/2も全滅したこともあり、今年もすでに被害がはじめた、と地元の人たちはいつている。

村役場へ立寄ったら、手がだせない、と困り切った表情。32人の地元猟友会のメンバーが中心になり、巣の上で昼寝しているところや穴ぐらにひそんでいるところをねらいうちしている。ワナを仕掛けたり、川の中にトアミを打ってとっていたこともあるが、最近はおぼろ銃だけ。丸太棒にナイロン袋をかぶせた「おどし袋」を川辺



りに立てている農家もあったが、ほとんどきき目はないらしい。地元の猟師と明け方や夜、足音をしのばせて歩いた。ドボン。物音に気づいたらしい。逃げ足が早く、写真はとれそうもない。ほうようにして進ん



だ。猟師が引金に手をかけた。命中した。走り寄ると茶褐色の毛におおわれた動物が血を吹いて倒れていた。ドブネズミよりふたまわり以上大きいバケモノネズミ。体長は約70cm

足のつめが赤く、水かきがある。同村では年平均250匹を捕獲、岡山県下全体で1000~1300匹をつかまえている。県と村では1匹につき計500円の奨励金をだしているが捕獲数は横バイという。1年に2、3回妊娠し3~6匹の子どもを生むので「とつてもとつてもいなくなる」と農家の人たちは嘆いていた。

ヌートリアはウサギの肉と似てあっさりしているという人もいるが、地元でも口にする人は少なくなる一方。猟友会長が腕をふるってサラに盛ってくれ「遠慮せずさあ、さあ」とすすめる。しかし、ネズミそっくりの姿を見ていたのでハシをつける気にならず、ことわるのに汗をかいた。

南米産のヌートリアは毛皮用に戦前輸入され、食用にもなるあつて飼われていた。だが、戦後安いうサギの毛皮がどつとはいってきたし、食糧難も去った。ヌートリアは見捨られ、一転して害獣化し、追われる運命になった。同じように毛皮用に持ってきたネズミの仲間マスカラット、チョウセンイタチは野性化し、ハブの天敵として奄美諸島に入れたマングースもニワトリを食べるため嫌われ者になっている。やっと見つけたヌートリアの生息地も安全ではない。藤田村では大がかりな宅地造成が始まり、ブルドーザーがどンドン農業用水路をこわしている。第二の悲劇だ。害獣とののしられる彼らすらもういなくなった日本に生き残るのは人間というバケモノだけではないか。人間のためにも遊ばされた輸入動物たちはあわれだが、それ以上に自然破壊がどンドン進んでいることがこわい。

(朝日新聞記者)

珍しい齧歯類 “パカ (Paka)”

はじめに —— 今年のえとのネズミにちなんで、珍しいネズミの仲間たちが、当動物園に、お見えしました。その中でもパカは、日本中の動物園でも初めての珍獣です。そこで今月はこのパカを紹介しましょう。パカは齧歯目バカ科に属し、中央アメリカから南アメリカに分布しており、沼や川の周辺に生息しています。そして地中に深さ1.2~1.5m位の巣穴を作って夏季に、この巣穴で1~2頭の子供を生みます。入園 —— この珍獣のパカは、昨年の11月14日に入園しました。パカの体つきはイノシシの子供のウリンボウみたいで、体の上面は美しいかっ色で4列の白い斑点があり、バクの赤ちゃんによく似ています。成獣になると、体長50cm~70cm体重は30kg以上にもなるそうですが、入園したパカは、まだ幼獣で、♂の体長は32cm体重1.7kg、♀は体長40cm体重3.2kgです。意外な性質 —— パカが入園するまでに、パカについて色々調べると、とてもおくびょうで神経質な動物だという事で、驚かさなげに注意しようと思っていたのですが、パカが入園してみると、意外にも、予想と反して、とてもおくびょうな動物とは思えない程、おっとりしています。パカを持って来た業者に聞くと、原地で捕えられてすぐ日本に送られてきたそうです。まだ2匹とも幼獣なのでおとなしいのかもしれませんが。しかし、私が、パカの体長や体重を調べるために、捕えようとするとき低いうなり声をあげ、時々ワフワフという声を発し後足でポンポンと地面をたたいて、私を威圧しますが、その姿は、いかにもユーモラスな動作です。そして入園してから1週間の間に観察した中でも色々とおもしろい習性が見られました。その1つは、収容場に、ひいてあったワラを集めて巣を作った事です。その巣には出入口用の穴が2つありますが、パカが出入りする穴は、いつも決っていて、もう1つの穴は、使わないのです。きっとこの穴は非常用のものかもしれません。そしてもう1つは、排尿、排便を水の中でする事です。収容場に入れてある、水ばんの中に入って、おしりを水の中につけて、用をすませます。パカの仲間アグーチとの比較 —— パカと近い種類にアグーチがいますが、このアグーチ



は動物園でも、ふつうに見られます。パカが入園したのを機会に、このアグーチと比較してみると、色々類似点や違う点があります。まず形態的な違いは、アグーチの後足は長く爪が蹄のようになって早く走るのに便利になっていますが、パカの足は短く、そして前足が、地面を掘るのに、都合のいいようになっています。その他、色々相違点がありますが、それは、又の機会にくわしく書きたいと思います。おわりに —— パカが入園して6ヶ月、2頭とも動物園の環境にもなれ、好物のリンゴ、パン、青菜などを食べ、体も1まわり程大きくなりました。今、パカは小獣舎のオープン動物舎に展示していますが、1日も早くかわいい赤ちゃんの姿を見られる様にしたいものです。

(農本 武志)

表紙の写真説明

“カンムリバト”

ニューギニアにすんでいるハトの仲間ですが、体の大きさやかたちからは、ハトとは思えないようです。名のとおり頭の上にかざり羽根があり、美しい鳥です。

なぎごえ6月号もくじ

ヌートリアの悲劇	2
珍しい齧歯類(パカ)	3
動物園グラフ	4・5
実験動物を訪ねて	6
37年と1カ月の動物園生活を終えて	6
動物園ニュース	7

動物園グラフ

“餌を調理する。”

本月は、動物たちの餌はどうして調理をしているのか、写真でご紹介します。



↑調理場全景

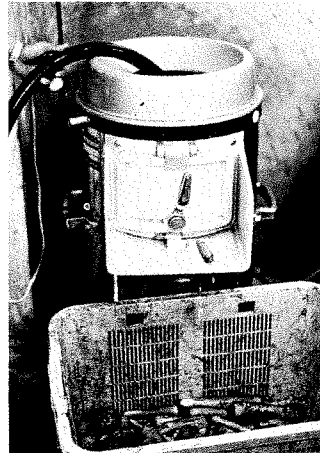


→ キノボリカンガルーやリスたちの餌も、こうして調理します。



↑1日の餌の配分
各担当動物ごとに、きれいに前日から係がわけておきます。

→ 洗浄 →
どろを落としてきれいにします。



→ 細断 →
カッターで、パレイショやニンジンなどを切っている。



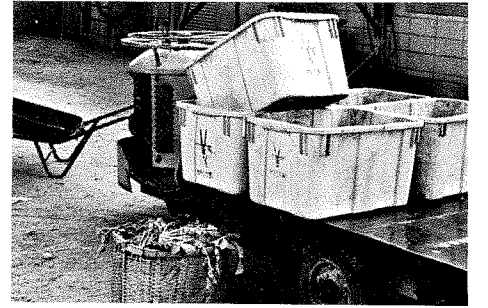
→ 鶏頭の調理 →
ハゲコウやキツネなどは、ニワトリの頭が好物。嘴を切って頭の骨をくだいて食べやすくします。



↑ペンギンの魚を選別している。
ペンギンの種類によって、魚の大きさをよりわける。



↑ダチョウなどの餌
パン・リンゴ・野菜を、ほどほどの大きさに切って、かごに入れる。



→ 運搬 →
餌料コンテナに入れて、運搬車にのせ各動物舎に運びます。

→ 攪拌 →
切ったパレイショやニンジンと、ペレット、牧草をねってまぜあわせませす。



4・5月の動物園日記

- 4/26 レッドパイソンが死にました。
- 27 エランドのめすが死にました。オリックスに角でつかれてから調子が悪かったもので、胎児を身ごもっていました。
- 28 シュバシコウのひなが、今年もふ化ははじめました。
- 29 祭日と上天気で、入場者が9万人を突破しました。“象の目方を計る会”の、目方の投票がはじまりました。
- 30 フラミンゴの交尾や営巣作業が見られました。本日も9万人の入場者があり、園内にはぎわいま

- した。
- 5/1 札幌円山動物園との動物交換が行なわれ、大阪からはキンクロハジロ2羽が送られ、札幌からはキタキツネ2頭が入園しました。
- 2 ファンボルトペンギンのひなは、惜しくも死んでしまいました。
- 3 セイランのめす1羽が死にました。
- 4 アカカンガルー1頭(めす)が死にました。レアが連日の多くの入場者のためか、食欲不振になっています。
- 5 今年もオオツルが産卵しましたが、2卵とも破れてしまいました。象の目方を計りました。ユリ子は3320kgで、ひろ

- 子は840kgでした。花子は、大きくなりすぎて、はかりに乗るのを嫌がり計れませんでした。
- 7 “家畜展”は本日で終わりましたが、都会の子供たちは、馬や乳牛の乳しぼりを見て、目をかざらせていました。
- 8 さいの子や、らくだの子のペットネームがきました。さい……さっちゃん らくだ……こぶちゃん
- 10 キノボリカンガルーが死にました。夜の冷え込みで風邪をひいたのが悪かったようです。
- 12 レア、オランウータンは、食欲がなく、治療中でしたがすっかりよくなりました。
- 14 ラクダの赤ちゃんが下痢をして薬を与えています。

- 16 キングペンギンやイワトビペンギンなど、夏の間冷房室に入るペンギンたちを入れてやりました。こ、で10月まで涼しい夏をすごすわけです。
- 20 ゾウガメは採食がや、悪く、係を困らせています。
- 28 ニホンザルの赤ちゃんが生まれていましたが、赤ちゃんをいじめる若めすがいて、さらって行き殺してしまいました。人間の世の中によくあることが、さる山にもおこったのです。
- 29 スカクが生まれましたが、3日後に親に咬み殺されていました。カンガルーのヌブリちゃんが、軽い熱射病にかかってしまい治療を受けています。

実験動物を訪ねて

“動物を扱って25年”

住吉区粉浜中之町1-14

浜口辰雄さん

今回は実験動物の仲買いをしておられる浜口さんのお宅を訪れいろいろとお話を伺いました。浜口さんの所は実験動物ばかりでなく手広くモータープールの経営をしておられ意欲的な方とおみうけしました。実験動物を扱われるようになったのは戦争中広大な土地に家庭菜園を作られていましたが戦後草が生えてその手入れに困り、アンゴラ兔をたくさん飼ってその兔毛を紡績工場に納入するように指定され、又府の畜産課からも種兔場に指定されたので、外国の実情調査のためカナダに勉強に行かれましたが、あまりにも広すぎて実情をつかめず観光旅行になってしまったと笑っておられました。アンゴラの毛も戦後三年位で下火になり海外への輸出も停止されてしまいました。そんな折、阪大市大等の大学から実験用として、又薬品会社からはパイロデントのテスト用として兔を依頼されました。その頃は各農村へ行けば兔は容易に集めることができました。尚兔だけでなくハツカネズミ、ラット、ハムスター等需用先より注文がありましたので職業として各動物の集荷に専心しました。でも兔以外の動物は企業として成り立ってきましたが、兔は成育期間が長いので絶体量の確保ができないようです。広い兔舎には完備された飼育箱が置かれ800頭近い兔の外、ネズミ、猿、緬羊など所狭しと動き廻っておりました。然しこれらの動物は5日～1週間位で手ばなして行くのだそうです。私は各県の農村から集められた動物を次の学校や会社へ送りこむと云った機械的な仕事としてやっておられるのかと思いましたが、さにあらず、これらの動物にも短い期間ではあるが愛着をおぼえるとのこと。飼育等も御主人



を始め家族の皆さんが当り丹精をこめて実験用に役立てようと並々ならぬ苦勞をしておられました。皆さんの愛情の賜が今までに病気の発生とか、大きな打撃を受けたことなどはあまり無いとのことでした。飼料もペレットを使用して飼育の簡素化を計っておられ、兔の給水器等にも工夫改良を凝らされ感心しました。実験用の兔では同じ体重(2kg位)の物を集め大学の研究室ではこれらの動物を一定の温度、湿度、飼料などの同じ環境の中で3日～5日飼育して実験に使うのだそうです。尚無菌動物についても4、5年前から研究が進められているようです。浜口さんはこれからの研究課題として国、又は各大学、会社等が共同で一貫した計画の下に(例えば生産一飼育一実験)行われていけば成果も今以上に上るのではないかと云われました。個人では設備その他の改善にいくら努力しても限度があり進歩が望めないとのことでした。最後に、このようにたくさんの実験動物が研究のために貢献していてくれることを忘れてはならないと思います。(林 邦彦)

37年と1カ月の動物園生活を終えて

和田辰巳

『なきごえ』をご愛読の皆さん、日頃は何かと動物園の発展にご支援いただき衷心より厚くお礼申し上げます。このたび、大阪市の人事異動によりまして天王寺動物園長を定年退職することになりました。思えば37年と云う永い年月を動物園一筋に戦前、戦中、戦後と、天王寺動物園の盛衰と共に生き、喜びも又悲しみも……体験してまいりました。いわば、私の生涯の総べてをかけた職場でありました。従って人一倍、動物園に対する愛着の念も深く退職後に於きましても健康の許す限り、暇があれば動物園を訪れ発展に蔭乍協力したいと思っている

次第であります。今は永い間の着馴れた袴を脱ぎ去り、全く野生動物の如く、ありのままの姿の野人となったのであります。私の園長在職中、片腕となって勤めてくれた中川君が新園長に任命されました。安心して園を去ることが出来ました。今後私以上のご厚情を賜りますようお願い致します。過去の思い出は山ほどありますが、永い間の皆様方のご愛顧に対し感謝し、ご多幸を祈りつご挨拶と致します。

動物園ニュース

★オランウータンの保護預り



6月1日、約1才のめすのオランウータンが大阪税関から保護を依頼され入園しました。和歌山市内のペット会社に船員が他の動物と交換してほしいと持込んだということで、オランウータンが国際保護動物に指定され捕獲や輸入禁

止になっているのを知らなかったということです。

これで当園には、オランウータンはおす1頭、めす3頭保護飼育することになりました。(写真下のもの)

★フラミンゴのふ化

今年は

★バーバリシープの赤ちゃん



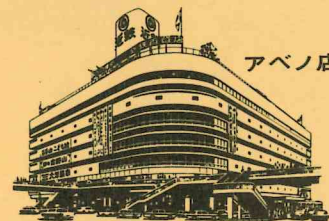
バーバリシープのふたごの赤ちゃんが生まれました。最近少しさびしくなっていたバーバリシープの山に、久しぶりに明るさをもどってきたようです。かわいい2頭の赤ちゃんが急なガケを平気でかけまわっています。

★めんようの毛刈り



6月1日は衣がえの日です。この日は、朝から真夏を

明日のくらしのコンサルタント



アベノ店



上本町店

3月14日 奈良近鉄百貨店オープン！近鉄西大寺駅前に登場した日本で初の本格的なショッピングセンターの中で新しい感覚のファミリーデパートとして多彩な催しをくりひろげます



奈良店

つねに新しいくらしのイメージをお届けする近鉄百貨店 品揃えは勿論のことゆきとどいたサービスで 皆さまをお迎えいたします 身近かなコンサルタントとしてぜひご利用ください



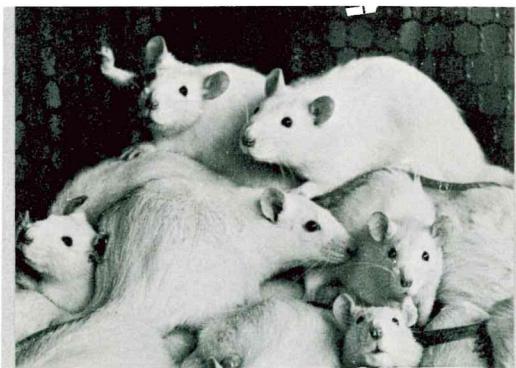
TEL. アベノ(06)621-1231 / 上本町(06)779-1231 / 奈良(0742)33-1111

実験動物を訪ねて

“動物を扱って25年”

住吉区粉浜中之町1-14
浜口辰雄さん

今回は実験動物の仲買いをしておられる浜口さんのお宅を訪れいろいろとお話を伺いました。浜口さんの所は実験動物ばかりでなく手広くモータープールの経営をしておられ意欲的な方とおみうけしました。実験動物を扱われるようになったのは戦争中広大な土地に家庭菜園を作られていましたが戦後草が生えてその手入れに困り、アンゴラ兔をたくさん飼ってその兔毛を紡績工場に納入するように指定され、又府の畜産課からも種兔場に指定されたので、外国の実情調査のためカナダに勉強に行かれましたが、あまりにも広すぎて実情をつかめず観光旅行になってしまったと笑っておられました。アンゴラの毛も戦後三年位で下火になり海外への輸出も停止されてしまいました。そんな折、阪大市大等の大学から実験用として、又薬品会社からはパイロゲン



を始め家族の皆さんが当り丹精をこめて実験用に役立てようと並々ならぬ苦勞をしておられました。皆さんの愛情の賜が今までに病気の発生とか、大きな打げきを受けたことなどはあまり無いとのことです。

飼料もペレットを使用して飼育の簡素化を計っておられ、重の給水器等にも

動物園ニュース

★オランウータンの保護預り

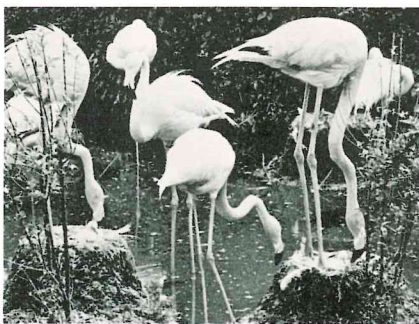


6月1日、約1才のめすのオランウータンが大阪税関から保護を依頼され入園しました。和歌山市内のペット会社に船員が他の動物と交換してほしいと持込んだということで、オランウータンが国際保護動物に指定され捕獲や輸入禁

止になっているのを知らなかったということです。

これで当園には、オランウータンはおす1頭、めす3頭保護飼育することになりました。(写真下のもの)

★フラミンゴのふ化



今年は4つの巣で抱卵をしていましたが、そのうち6月2日3日に2羽がかえりました。いずれもキューバ

フラミンゴで親は大変よくめんどうを見えています。昨年は、ふ化9日目に大きくなったひなが池に出ているところを野猫かねずみに襲われていますので、今年は十分警戒しています。

★シマウマの赤ちゃん誕生



6月1日、シマウマにめすの赤ちゃんが生まれました。3年ぶりのおめでたで係も大喜びでした。大きくて丈夫な赤ちゃんで、すぐに立ち上り歩き出すというハッスルぶりでお乳もよく飲んでいましたので、きっと立派に育つでしょう。

これで、シマウマは親子4頭になり、にぎやかになりました。

★バーバリシープの赤ちゃん



バーバリシープのふたごの赤ちゃんが生まれました。最近少しさびしくなっていたバーバリシープの山に、久しぶりに明るさをもどってきたようです。かわいい2頭の赤ちゃんが急なガケを平気でかけまわっています。

★めんよの毛刈り



6月1日は衣がえの日です。この日は、朝から真夏を思わす好天気で、恒例のめんよの毛刈りを行いました。7頭のめんよは次々

に大きなハサミで長い毛を刈られサッパリした表情で細い目をさらに細めていました。7頭で約22kgの毛がとれました。

昭和47年度天王寺動物園児童および幼児動物画コンクール作品募集

主催 大阪市天王寺動物園
社団 大阪市天王寺動物園協会
法人
後援 大阪市教育委員会

＜記＞

- 募集期間 昭和47年6月1日～昭和47年9月10日
- 参加資格 小学校児童および幼稚園、保育園々児
- 画題 天王寺動物園の動物または園内風景
- 作品提出期限 昭和47年9月10日(天王寺動物園必着のこと)
- 応募上の注意
 - ① 画具はクレヨン、水彩、パス類
 - ② 画用紙4ツ切とする
 - ③ 1人1点とし、学校名、学年、氏名を裏面に明記の上、各学校、学園にてとりまとめ送付のこと
- 審査月日 昭和47年9月16日(土)
- 審査方法 各学年別に5点、学園の部10点を選び入選とする(計40点)
- 特典 入選作の中から、優秀作品を各学年別に2点、学園の部4点、計16点を第18回全国動物画コンクール(日動水協主催)文部省後援に出品する。審査発表は10月中旬の予定。
- 発表展示 秋の動物園まつり期間中(11月初旬の予定)当園地下道壁面
- 賞 入選作品には賞状、賞品をおくる。全国コンクール入賞者には、更に賞状、賞品を併せ進呈。(秋の動物園まつり期間中)
- その他
 - ① 審査結果については各応募校へ通知
 - ② 出品作品は、希望により返還するも郵送はいたしません。

子どものための

動物のふしぎな世界

●全4巻 春・夏・秋・冬

- 園児から小学校低学年向きです。
- オールカラー160頁・B5判・上製本
- 各巻定価1,300円/セット価5,200円

子どもに動物に対する深い興味と、親しみを与える本書は、春・夏・秋・冬の季節別に活動する動物の生態の不思議さや、人と動物との心あたたまるふれ合いなどのエピソードを集めたものです。きっと子どもと動物たちの間にすばらしい世界がはじまるでしょう。

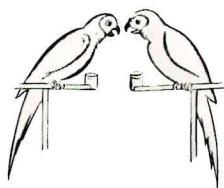
●お近くの書店・百貨店で求めください。 **ひかりのくに**



なきごえ 昭和47年6月15日発行 (毎月1回15日発行) 第8巻第6号 (通巻83号)

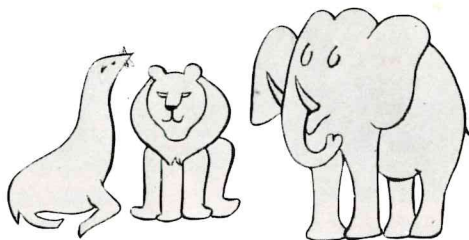
編集 / 大阪市天王寺動物園
発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 加藤寿雄
印刷所 / 株式会社 松村善進堂
定価100円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区玉水町2
電話 大阪 (06)771-0201
振替口座 大阪 37823
1年継続(12部)1,100円(送料共)



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話 (078)22-8195・22-1517
飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話 (078)24-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

パイン・オレンジ・フルーツカクテル

各140c.c.=60円